

しら ちよう
白 檀 町

県内屈指の大住宅団地

団地開発が昭和四二年に始まった「檀原ニュータウン」は、市の町名統一で平成三年に「白檀町」となりました。三四〇〇世帯余りの一万人を超える人が住む同町は、いまや県内屈指の大住宅団地です。この一帯が開発前、田畑や原野の広がる緑いっぱい、牧歌的な土地であったことなど、もう想像すべくもありません。

この地を日本の古い歴史書・古事記が「神武天皇の即位した畝傍山の東南、白檀（檜原）」と、書き残しています。最古の日本書紀にも「畝傍山東南の檀原の地」とありますので、古代このあたりが「日本建国に係わる地」として、なんらかの注目を浴びていたことが十分に想像されます。

白檀町を中心とする市南部には、鳥屋・池尻・畝傍・見瀬・石川・大軽・南妙法寺など、一九か村を合併した「白檀村」が明治のころにありました。この村が昭和三年の町政施行で「畝傍町」と名が変わり、同三年の町村合併で檀原市に編入されています。従って、一度は姿を消していた伝統ある「白檀」の地名が、ニュータウン建設に伴う檀原市の町名統一で、久々の復活を果たしたことになりました。